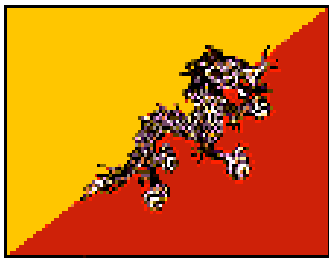




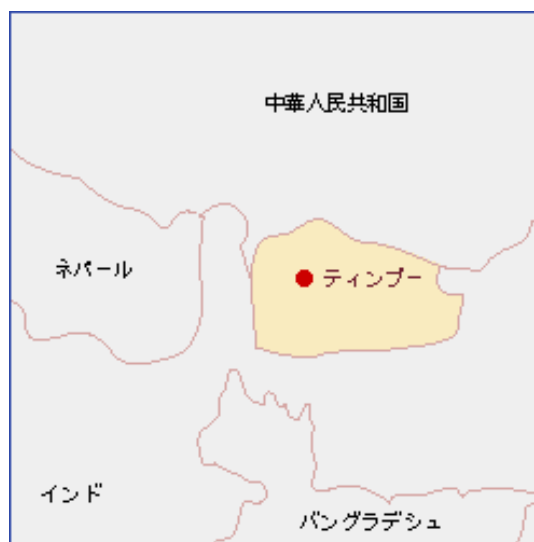
## 世にもユニークな国 ブータン

1. 世界で一番大きな国と二番目に大きな国に挟まれた小国
2. 王様が言い出して民主化した世界で初めての国
3. 国交を持つ国はわずか25ヶ国、奇跡的な独立の維持
4. Gross National Happiness を発表した王様



Kingdom of Bhutan

## ブータン王国



## 1. 基礎データ

面積：約 38,394 平方キロメートル（九州より若干狭い）  
ほとんどが山、ヒマラヤ山脈の間にある国

気候：亜寒帯から亜熱帯  
（標高 200m より 7000m、町は 2～3000メートル）

人口：約 68 万人（ブータン政府資料 2009 年）（島根県とほぼ同じ）

首都：ティンプー（Timpbu）

民族：チベット系（約 80%）、ネパール系（約 20%）

宗教：チベット系仏教、ヒンズー教（25%）

言語：ゾンカ語（公用語）、英語

## 2. 略史

8C チベットから高僧パドマサンババ（別名 **Gru Rimpoie**）が  
虎の背中に乗って **Takshang** 山（2960m）に現れ、統治を開始  
した、とされている。**Takshang** 山は聖地とされ、仏陀や **Gru**  
**Rimpoie** が祭られている。

1616年 チベットの高僧 **Ngawang Namgyel** が各地に割拠する群  
雄を征服し、全地域で聖俗界の実権を掌握。

1865年 英国との戦争に敗れ、平野部分を割譲し、山岳地帯だけの  
現領土となる。

1907年 19C末東部トンサ郡の豪族ウゲン・ワンチュクが支配的  
群長として台頭し、同氏が僧侶や住民に推されて初代の世襲藩王に  
就任、現王国の基礎を確立。

1952年第3代国王即位

農奴解放、教育の普及等の制度改革を遂行し、近代化政策を開始

1971年国連加盟

1972年第4代国王 (Jigme Singye Wangchuck) 16歳で即位。

近代化路線の継承と発展、

Gross National Happiness(GNH) を発表 (1976年)

民主化の指示 (2005年)

2006年12月 第5代国王の就任 (戴冠式は2008年11月6日)

2007年12月上院議員選挙

2008年3月 下院議員選挙、4月ティンレイ内閣の成立

5月 新国会の召集、

7月 憲法の採択

立憲君主制となる

### 3. 経済規模

GNI : 1.3 bn ドル (一人当たり : 2030ドル) 世銀2009

予算 : 5年単位 170 bn ドル (170、000億円)

1年 34 bn ドル (34、000億円)

(cf. 島根県約5300億円)

約35%は海外援助 (15%の借款)

40%は水力発電による売電収入

### 4. Gross National Happiness (GNH)

“Gross National Happiness is more important than

Gross National Product” と第4代国王が21歳の時にスピーチしたこと  
から始まる。

- ① 持続可能で平等な社会経済発展
- ② 環境保全
- ③ 文化保存
- ④ 良い統治

King Jigme Dorji Wangchuk(King IV) used the phrase to signal his commitment to building an economy that would serve Bhutan's unique culture based on Buddhist spiritual values.

The concept was developed to a sophisticated survey instrument to measure the population's general level of well-being, in an attempt to define an indicator that measures quality of life or social progress in more holistic and psychological terms than gross domestic product(GDP).

The Bhutanese grounding in Buddhist ideals suggests that beneficial development of human society takes places when material and spiritual development occur side by side to complement and reinforce each other.

At the level of generality of four pillars (promotion of sustainable development, preservation and promotion of cultural values, conservation of the natural environment, and establishment of good governance), the concept of GNH is transcultural, a nation need not be Buddhist in order to values these four.

(Through collaboration with international group of scholars and empirical researchers, the Centre for Bhutan Studies further defined these four pillars with greater specificity into eight general contributors to happiness; physical, mental and spiritual health; time-balance; social and community vitality; cultural vitality; education; living standards; good governance; and ecological vitality.)

GNH に関する国際会議;

2009 年 the 5<sup>th</sup> International Conference on GNH

2006 年 the 2nd regional Conference 明治学院大学

第 5 代国王の戴冠式のスピーチ (添付)

## 5. 日本との関係

西岡京治氏 (1933~1992年) のこと

1964年から現地で亡くなるまで、28年間農業指導等にあたった。当初2年間の予定だったが、誠実な人柄と常にブータン人の立場に立

って考える発想にブータン人より厚く尊敬され、1980年、国王より外国人では初めてとなるダショー（貴族・政府高官などに贈られる爵位）の称号を授与された。西岡氏のお陰で、ブータン人の日本人一般に対する信頼感が構築され、以降、援助関係者だけでなく、外交的にも両国の友好関係が続いている。

大喪の礼（1989年2月）に出席された国王（第4代国王）は弔問外交を嫌い、すぐに帰国後1年間、昭和天皇を偲んで喪に服された。

本年は日本・ブータン外交樹立25周年

## 6. 私の感動したこと

- ① 第4代国王の開明さ（第5代国王も）
- ② 若き官僚の国（および国王）の為に働く純粋な情熱
- ③ 仏教が生活の一部
- ④ きれいな水と空気
- ⑤ 英語のこと

## 文献

- 1 「ブータン」 西岡京治・里子 NHK出版
- 2 「ブータンの政治」 レオ・E・ローズ、明石書店
- 3 「虹と雲―王妃の父が生きたブータン現代史」  
セブ・ウギェン・ドルジ、今枝監修、平河出版
- 4 「ブータン感傷旅行」 小方全弘 茗溪堂
- 5 「遙かなるブータン」 ヒマラヤのラマ教王国をゆく、NHK出版
- 6 「幸福大国ブータン―王妃が語る桃源郷の素顔」 NHK出版
- 7 「現代ブータンを知るための60章」 平山修一 明石書店
- 8 「ブータンに魅せられて」 今枝由郎 岩波新書
- 9 「ブータン仏教から見た日本仏教」 今枝由郎 NHK出版
- 10 「幸福立国ブータン」 大橋照枝 白水社